



第8冊 20丁表



第7冊 14丁裏

世渡風俗圖會

清水晴風編、画 写 和装 8冊

縦19.1×横13.3cm 〈請求記号に-37〉

本書は延宝年間(1673-81)から明治35年(1902)頃までの世渡人の変遷を、玩具や風俗の研究で知られ、江戸の生き字引といわれた清水晴風が描き残したもの(一部手彩色)。明治37年(1904)5月14日購求。字体や絵の特徴から晴風自筆と思われる。昭和61年(1986)、国書刊行会から複製本(2冊 請求記号GD11-136)が刊行されている。上図に描かれているのは、後のチンドン屋の先駆となった廣目屋。右図「廣目家の廣告」には、編み笠をかぶった楽隊が、笛を吹いたり太鼓をたたきながら、店名、売品を宣伝して回った様子が描かれ、「咲花をひらめに廻る囃子かな」の句が添えられている。左図「廣目屋」には、大八車に各店の商標を飾り付け、その売品を拍子木を打ちながら大声で宣伝して回った様子が描かれている。

(川本 勉)

(本文七頁、『東京名物百人一首』「一四」参照)